

地域における介護福祉士の取組

巻頭言……地域共生社会における介護福祉士の専門性の活用◆◆及川ゆりこ

5

1……地域共生社会における職能団体の役割と可能性◆◆吉岡俊昭

6

2……介護福祉士として地域をどう捉え、どう歩むべきか

——「点」のつながりを「面」の共生へ変える専門職の役割◆◆田中栄

14

3……バトンは「安心」全国介護リレーの旅◆◆中村弥生

21

4……地域見守り協力隊フロイデサポーターinおがわ◆◆藤田拓巳

27

5……介護福祉士の専門性を活かした地域移動支援の実践

——福祉タクシーを通じた生活支援と地域連携◆◆山田英和

33

COLUMN……介護福祉士の役割◆◆及川ゆりこ

12

口腔につよくなる話——「バ・タ・カ」で分かる誤嚥リスク◆◆高井晃

39

E

N

T

S



NO.137

2026年8月1日発行

表紙illustration●横田ユキオ

カイゴ職のwell-beingを高めるキャリア形成

——カイゴ職の可能性を広げるアンコンシヤスバイアス—— ◆ ◆ ◆ 森和美

42

掛け合わせの力から次の住処へ——カイゴをひらく—— ◆ ◆ ◆ 川原奨二

44

にほんではたらく。外国人介護職リレーエッセイ ◆ ◆ ◆ リバス・レア・クリスティン・パス

46

人材の3つのヒント——介護業界の採用は「欠員補充型」から抜け出せるか—— ◆ ◆ ◆ 丸山法子

48

障害者をささえる現場から——正解のない支援に向き合い続けることのやりがい—— ◆ ◆ ◆ 海野侑也

50

介護とシーティング——座ることを諦めない—— ◆ ◆ ◆ 篠森丞

52

課題解決のための事例検討——本人の意向が介護者の意向と異なる事例—— ◆ ◆ ◆ 小規模多機能ホームぶどうの家

55

介護職が知っておきたい医学の知識——高齢者の食——②食べられない理由を見抜く—— ◆ ◆ ◆ 堀田富士子

62

地域で生きるともに生きる——身寄りのない高齢者等への支援強化における介護福祉士の役割—— ◆ ◆ ◆ 菊地月香

64

五感から生じた感情に共感する暮らしのサポート・カイゴ

——五感の楽しみで、仲間とともに生きる。特別養護老人ホームの力—— ◆ ◆ ◆ 石川立美子

66

国家試験のご案内

70

資格登録後の各種手続きのご案内

72

社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士都道府県別登録者数

74

読者アンケートの募集

75

バックナンバーのご案内

76

C

O

N

T

地域

における

介護福祉士の取組



我が国の大きな課題となっている人口減少、少子高齢社会の現状において、地域共生社会のさらなる展開などが必要であろうとたわれている。他方で、厚生労働省における社会保障審議会福祉部会（以下「本部会」という）の検討のための資料に、「地域における支え合い機能の脆弱化が見込まれる」とあった。

我が国が進める地域共生社会に対する取組については、社会保障審議会の様々な部会・委員会等で検討が繰り返されているが、その担い手



地域共生社会における介護福祉士の専門性の活用

の一つとして地域住民による支え合いなどが打ち出されている。ボランティア主体の地域住民による支援の枠組みは貴重であり、その取組の拡大は期待されているところである。しかし、一方ではボランティアメンバーの高齢化や、支える・支えられる関係性の持ち方の難しさ、複雑化するニーズなどの課題も多く、地域における支え合い機能の脆弱さ等も見えており、取組の継続性の危うさは否めない。

本部会において、日本介護福祉士会の立場が

ら、「地域における支え合い等の取組を継続させるためには、一定の専門性を備えた人材の関わりは必要である」と考える。例えば、介護にまつわる悩みや相談事を抱えている地域住民は少なくない。地域共生社会のさらなる展開を図るには様々な側面を持った市民が集まることが必要であると考ええる。その中で、介護福祉の専門性は欠かせず、地域に存在する潜在的な介護福祉士等専門職を有効に活用していく視点も重要ではないか」という趣旨を申し述べた。

私は、介護福祉士等専門職の様々な取組があることを知っている。だからこそ今回は、地域における職能団体の取組や、介護福祉士の取組を紹介する。

介護福祉士有資格者である今回の特集の筆者等の取組は、介護の実践活動のみではなく、地域を見据えた取組ということに着目してほしい。

この先の介護現場における役割と併せ、地域における介護福祉士たちの活躍に期待したい。



及川ゆりこ

公益社団法人日本介護福祉士会相談役・前会長

静岡県三島市在住。公益社団法人日本介護福祉士会相談役・前会長。一般社団法人静岡県介護福祉士会顧問。社会福祉法人駿府葵会法人事務局長。医療法人にて、病院の介護職員、老人保健施設の介護職員、介護支援専門員、訪問介護事業所所長、デイケアセンター長を務め、社会福祉法人にて、施設ケアマネジャー、介護長、施設長を経験した。介護福祉士。介護支援専門員。認定介護福祉士。

介護福祉士の

専門性を活かした

地域移動支援の実践

福祉タクシーを通じた生活支援と地域連携



山田英和 Yamada Hidekazu

山田福祉タクシー代表

はじめに

日本は世界でも例を見ない速度で高齢化が進行しており、地域社会の在り方や福祉サービスの提供体制は大きな転換期を迎えている。高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けるためには、医療・介護・福祉・地域住民などが連携する地域包括ケ

アシステムの構築が重要とされている。その中でも近年注目されている課題の一つが「移動支援」である。高齢者や障害のある方にとって、通院や買い物、地域活動への参加、友人との交流など、日常生活の多くの場面で移動は欠かせない。しかし身体機能の低下や交通手段の不足、家族の支援体制の変化などにより、外

出機会が減少する高齢者が増えている。

外出機会の減少は生活の利便性の低下だけでなく、社会との接点が減ることによって孤立や閉じこもりを生み、生活意欲や心身機能の低下につながる可能性がある。つまり「移動」は生活の質（QOL）を維持する上で重要な要素であり、生活支援の一つ

口腔につよくなる音

第4話

「パ・タ・カ」で分かる誤嚥リスク 明日からの食事ケアが変わる観察のポイント



高井 晃
Takai Akira
高井歯科医院院長

日々の現場で「パ・タ・カ」の口腔体操を実践されていることと思います。では、なぜ数ある音からこの3音が選ばれるのでしょうか？

実は、発音のメカニズムを知ること、利用者の口腔機能がある程度把握できます。「『パ』が苦手な方は、食事中にこのリスクがある」というように、事前に危険を予測できるようになるのです。

「パ」音から分かること

「パ」の発音は、口の中の圧力（口腔内圧）を高めて一気に解放するため、圧力が逃げないよう口の中を密閉することが重要です。次の2つの動作がカギを握ります。

1 口唇の閉鎖……口腔内圧が口から漏れないよう、唇をしっかり閉じる動作

2 鼻咽腔の閉鎖……圧力が鼻から漏れないよう、軟口蓋（のどんご周辺の柔らかい部分）が挙上し、口腔と鼻腔を遮断する動作

これらは嚥下にも重要で、飲食物を胃へ送り込む原動力が「口腔内圧と嚥下圧」です。試しに唇を開けたまま唾液を飲み



カイゴ職の

「支援者からはじめるウェルビーイング 任意団体Streat」主宰
精神保健福祉士・公認心理師
森和美 Mori Kazumi

well-being を高めるキャリア形成

「アンコンシヤスバイアス」という言葉を聞いたことはありませんか？ アンコンシヤスバイアスとは、私たちが何かを見たり、聞いたときに、無意識に「こうだ」と思い込むことです。私たちはこれまでの経験や環境を通して、「ものの見方」や「感じ方」を身につけています。

例えば、育児や介護のために時短勤務を選択している同僚がいるとします。「生活が大変かもしれない背景がある」と認識することは、状況をすばやく整理し、判断や対応をスムーズにする側面があります。

一方で、「今は大変だろうから、責任の重い仕事は任せず、定時で帰りやすい定型業務だけをお願いしよう」と配慮した場合はどうでしょうか。これは「家庭との両立を支えてあげたい」というよかれと思つての判断かもしれませんが、しかし、もし本人が「限られた時間の中でもやりがいのある仕事で貢献

したい」「キャリアを停滞させたくない」と考えていた場合、その配慮は意欲をそぎ、活躍の機会を奪ってしまうことにもなりかねません。これは、相手の状況だけを見て、「きっと無理だろう」「こうしてあげるのがよいだろう」と、本人の意思を確認せずに判断してしまった一例です。

アンコンシヤスバイアスに気付かないままであることで、知らず知らずのうちに支援や人間関係にも影響することがあります。

◆よかれと思つての判断が、利用者の自己決定を奪ってしまう（**パターナリズム**）

◆相手の属性からニーズを固定化してしまう（**ステレオタイプ**）

◆慣れた頃に「大丈夫だろう」と判断してしまう（**正常性バイアス**）

また、自分自身のキャリアにも影響することがあります。

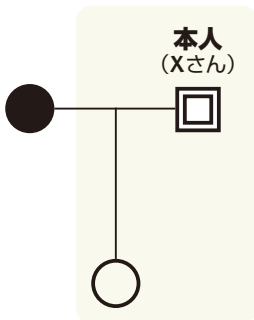
◆「プロなのだからこうあるべき」という規範意識で苦しくなってしまう（**役割固定バイ**

こんな時、他の施設ではどうしているのだろうか？ 課題に対してどういうケアを展開しているのか？ 本コーナーでは、プラスマイナスも含めた事例を現場から提供いただきました。

本人の意向が介護者の意向と異なる事例

事例の概要

- **Xさん**……男性・80歳代前半
- **入所期間**……2026年2～3月
- **傷病名**……喘息、胃潰瘍
- **要介護度**……要介護2
- **家族構成**……要介護2



- **生活歴**……10歳代のときに車の工場に勤務し、職場で妻と知り合い結

婚。20歳代のときに妻とともに九州から岡山にやって来た。当時新しくできた団地に家を建て娘と3人で暮らしていた。定年まで岡山の整備工場で働く。職場にも団地にも友人は多く最近まで付き合いがあった。妻が5年前に他界し、現在は娘と二人暮らし。

援助経過の要約

………**出会い**………

Xさんの支援は、以前の居宅介護事業所からの「本人はしっかりして



事例提供

三喜株式会社

小規模多機能ホームぶどうの家